

# 国際シンポジウム

共生社会東日本地震被災者救援・支援の会

Presents

## 災害時のNPO/NGOの役割 『人間復興』の視点から考える

東日本大震災は、甚大な被害を地域の経済や人々の生活に与えました。その復興に向けて、NPOやNGOも緊急救援・復興支援に取り組んでいます。アメリカでも2005年、カトリーナ台風が襲来した際、NGOが被災者の救援と地域の復興に向けた活動に関わってきました。NPOやNGOは、大規模災害においてどのような役割を果たしてきたのでしょうか。また、果たすことが期待されるのでしょうか。カトリーナ台風の4年後に、復興活動に関わるNPOやNGOに対する調査では、政府による住居などのハード面の再建だけではなく、NPOやNGOが人々の生活の再生に向けた支援を行うヒューマンリカバリー（人間復興）の重要性が指摘されました。この調査を実施したアニタ・チャンドラさんをお招きして、東日本大震災で活動している関西のNGO関係者とともに、災害からの復興におけるNGOの役割と意義について考えるセッションを設けることにしました。折りしも、大阪を含めた関西では、近い将来、東海地震、東南海地震、南海地震という3つの巨大地震の発生が予想されています。是非、ご参加頂き、ともに考えてみませんか。

Anita Chandraさん

アメリカの首都ワシントンに本部を置く世界的なシンクタンク、ランド・コーポレーションの調査部行動政策科学部部長・上級政策研究員、ならびにパーディー・ランド大学大学院の教授。公衆衛生や青少年問題、コミュニティベースの参加型調査などを専門に調査研究に従事している。2005年にアメリカのメキシコ湾岸地域を襲ったカトリーナ台風の4年後、被災地で支援活動を行ってきた、40余りのNGOや政府機関への聞き取り調査を実施。大災害からの復興には建物などのハードの回復に目が向けられがちなかで、住民の生活レベルでの回復、ヒューマンリカバリー（人間復興）が重要だとしたうえで、これをNGOが大きく担っているにもかかわらず、連邦危機管理局(FEMA)などの政府はその意義を十分に理解せず、財政的な支援も不十分として、改善の必要性を訴える論文を発表、注目を集めた。



- ★日時 2013年3月7日(木)  
午後6時半から9時
- ★場所 大阪市立大学大学院  
梅田サテライト101教室  
大阪駅前第2ビル6階 JR北新地駅真上
- ★講師 Anita Chandra氏 (Rand Corporation, 上級政策研究員)  
日本側ゲスト 人選中
- ★司会 柏木宏(大阪市立大学大学院 教授)
- ★参加 無料
- ★予約 不要
- ★主催 共生社会東日本地震被災者救援・支援の会  
大阪市立大学大学院都市共生社会研究分野

お問い合わせ

共生社会東日本地震被災者救援・支援の会

URL: <http://www.gscc.osaka-cu.ac.jp/>, E-mail: [kashiwagi@gscc.osaka-cu.ac.jp](mailto:kashiwagi@gscc.osaka-cu.ac.jp)

Hiroshi Kashiwagi